

Ⅱ ごみ減量・再資源化事業

1 概 況	9
2 再資源化事業	9
(1) びん・缶・ペットボトルの再資源化	9
(2) 古紙・布類の再資源化（ステーション収集）	10
(3) 古紙・布類の集団回収	10
(4) 古紙回収庫による拠点回収	11
(5) 生ごみの再資源化	12
(6) 剪定枝等の再資源化	13
(7) 事業系資源物の再資源化	13
(8) 使用済小型電子機器等の再資源化（ボックス回収）	14
(9) 廃食油の再資源化	15
(10) リサイクルセンター資源回収	15
(11) 焼却灰等の再資源化	16
(12) 有害ごみ等の再資源化	16
3 再生利用の推移	17
4 ごみ削減啓発事業	18
(1) 町内自治会等への説明会「今すぐ実践！ごみ減量講習会」	18
(2) 市民が集う各種イベントにおける普及・啓発キャンペーン	18
(3) 未就学児向け啓発「へらそうくんルーム」	18
(4) 小学生向け啓発「ごみ分別スクール」	19
(5) ごみ出しチェック隊「へらソーズ」	19
(6) ごみ処理施設見学ツアー	19
(7) 高校生向け啓発「エコレシピ料理講習会」	19
(8) 大学生ごみ減量ボランティアグループ「ちばくりん」	20
(9) 生ごみ資源化アドバイザー	20
(10) 生ごみ肥料化講習会	20
(11) 生ごみ減量処理機等の普及促進	21
(12) 剪定枝チップ機の貸出	22
(13) 広報紙等による啓発	22
(14) 情報の提供等	23
(15) 事業所向け指導・啓発	23
(16) ごみ減量のための「ちばルール」の周知・普及	24
(17) 食品ロス削減の普及啓発	25
(18) ごみ収集車でのバイオディーゼル燃料（BDF）の使用	26
(19) 「焼却ごみ削減キャラクター」へらそうくんによる啓発	27
5 不適正排出防止対策	27
(1) 分別・排出ルール指導制度	27
(2) 家庭ごみステーション排出指導	27
(3) ごみステーションの美化活動に関する表彰	28
6 美化推進・路上喫煙等防止PR関係事業	28
(1) 美しい街づくりに係る活動支援	28
(2) ごみゼロクリーンデー（ごみゼロ運動）	28
(3) 路上喫煙等防止街頭周知活動	28
7 リサイクル等推進基金	29
8 蘇我エコロジーパーク構想推進事業	30
9 千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の概要（平成29年度～43年度）	32

1 概 況

収集運搬、処分などの適正処理に加えて、減量・再資源化が大きな問題となっている。ごみ問題は、その量的増大と質的多様化ゆえに抱える処理困難性の課題とともに、地球温暖化等の環境への負荷、資源の枯渇等地球規模の課題まで、今や、経済・文化等の分野をも取り込んだ大きな社会問題になるに至った。

21世紀を迎え、資源循環型の社会システムの構築は必須の目標であり、ごみ減量・再資源化は行政のみならず市民・事業者の一人ひとりが可能なところから実践していかなければならないテーマである。

2 再資源化事業

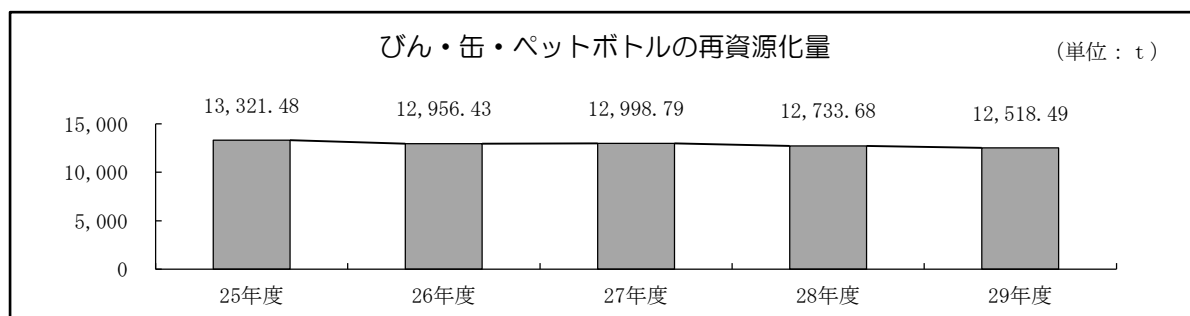
(1) びん・缶・ペットボトルの再資源化

平成4年10月から5分別収集が実施され、びん・缶は資源物として収集している。びんは無色、茶色、その他、^{いき}生びん(リターナブルびん)に、缶はスチールとアルミに、新浜リサイクルセンターで選別し再資源化している。

また、平成9年度から容器包装リサイクル法が本格施行され、市内約70か所のスーパー等でペットボトルの店頭(拠点)回収を行っていたが、排出量の増加に伴い回収体制を強化し、リサイクルへ積極的に取り組むため、平成13年2月から、ごみステーションによる収集を開始した。回収したペットボトルは、新浜リサイクルセンターで一時的保管後、再資源化している。

(単位：t)

項 目 \ 年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
びん	7,186.99	7,076.63	7,194.12	6,949.89	6,733.16
無色	3,461.96	3,311.62	3,387.59	3,292.58	3,163.95
茶色	1,947.68	1,944.34	1,867.22	1,690.27	1,665.54
その他	1,527.53	1,623.31	1,693.05	1,614.33	1,587.91
^{いき} 生びん	249.82	197.36	246.26	352.71	315.76
缶	3,001.78	2,866.35	2,735.88	2,700.86	2,624.97
スチール	1,330.49	1,216.00	1,099.99	1,060.76	1,007.25
アルミ	1,671.29	1,650.35	1,635.89	1,640.10	1,617.72
ペットボトル	3,132.71	3,013.45	3,068.79	3,082.93	3,160.36
合 計	13,321.48	12,956.43	12,998.79	12,733.68	12,518.49

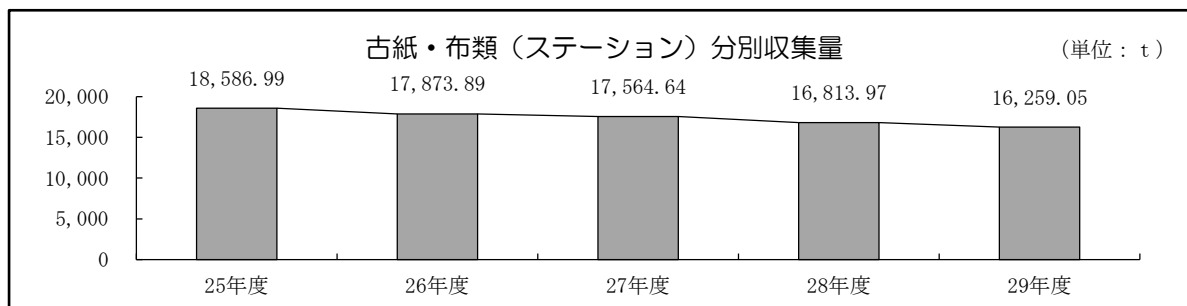


(2) 古紙・布類の再資源化（ステーション収集）

ごみ減量のための「ちばルール」を推進するための施策として、平成16年度から、月2回、地域団体等による集団回収が未実施の地域について、ごみステーションを利用した古紙・布類（ステーション）分別収集を開始した。平成17年10月から中央区全域へ、平成18年10月からは全市域へ収集区域を拡大し、また、平成21年10月から収集回数を週1回に変更して、再資源化を推進した。

（単位：t）

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
古 紙	17,511.32	17,025.79	16,741.01	16,077.10	15,520.11
新 聞	4,209.04	3,901.29	3,642.31	3,266.89	3,003.42
雑誌・雑がみ	7,932.06	7,784.44	7,581.91	7,191.41	6,916.96
段 ボ ー ル	5,300.92	5,272.56	5,452.84	5,558.03	5,545.68
紙 パ ッ ク	69.30	67.50	63.95	60.77	54.05
布 類	1,075.67	848.10	823.63	736.87	738.94
合 計	18,586.99	17,873.89	17,564.64	16,813.97	16,259.05



(3) 古紙・布類の集団回収

平成2年度から、ごみ減量・再資源化を一層推進するため、町内自治会や子ども会等が行う集団回収に対し奨励補助金を交付し、その活動を支援するほか、回収業者である「千葉市再資源化事業協同組合」に対して回収量に応じて補助金を交付している。（参考資料P239）

名 称	代表者	所 在 地	T E L	組合員数
千葉市再資源化事業協同組合	飯田 俊夫	千葉市中央区富士見2-22-6 富士ビル5階A室	227-7709	49社

ア 補助金単価

（平成29年度）

品 目	新 聞	雑誌・雑がみ	段ボール	紙パック	布 類
回収団体（町内自治会など）	2円/kg（平成19年度から、拠点回収団体に500円/月を加算）				
回収業者 （千葉市再資源化事業協同組合）	3.4円/kg	5.0円/kg	3.9円/kg	5.0円/kg	10.9円/kg

イ 実施状況

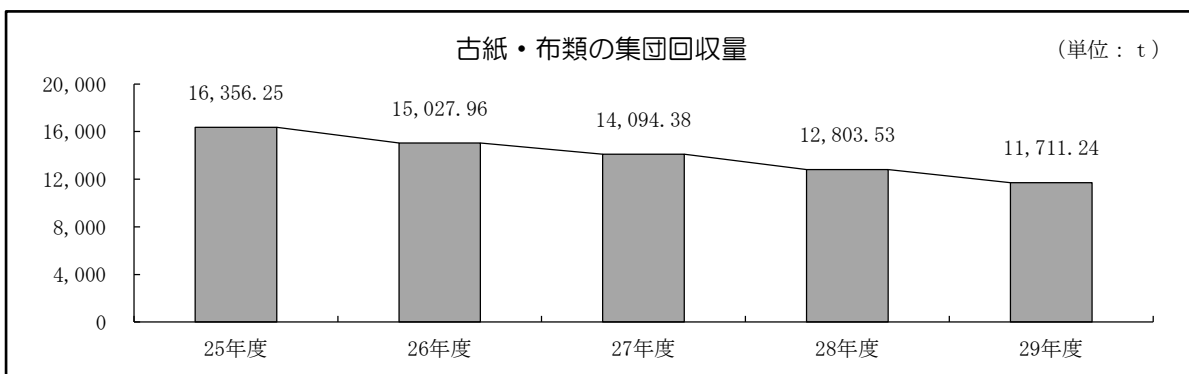
項目 \ 年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
登録団体数	852団体	845団体	834団体	820団体	807団体
補助金助成額	104,367千円	96,041千円	90,657千円	81,968千円	75,885千円

※助成額は、回収団体と回収業者（千葉市再資源化事業協同組合）への合計の額

ウ 回収量

（単位：t）

項目 \ 年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
古紙	15,744.12	14,503.53	13,566.67	12,336.08	11,274.92
新聞	8,772.04	7,884.37	7,204.96	6,377.89	5,684.68
雑誌・雑がみ	4,091.61	3,859.35	3,679.80	3,351.02	3,071.23
段ボール	2,851.46	2,733.51	2,656.77	2,581.78	2,496.16
紙パック	29.01	26.30	25.14	25.39	22.85
布類	612.14	524.43	527.71	467.45	436.32
合計	16,356.26	15,027.96	14,094.38	12,803.53	11,711.24



（４）古紙回収庫による拠点回収

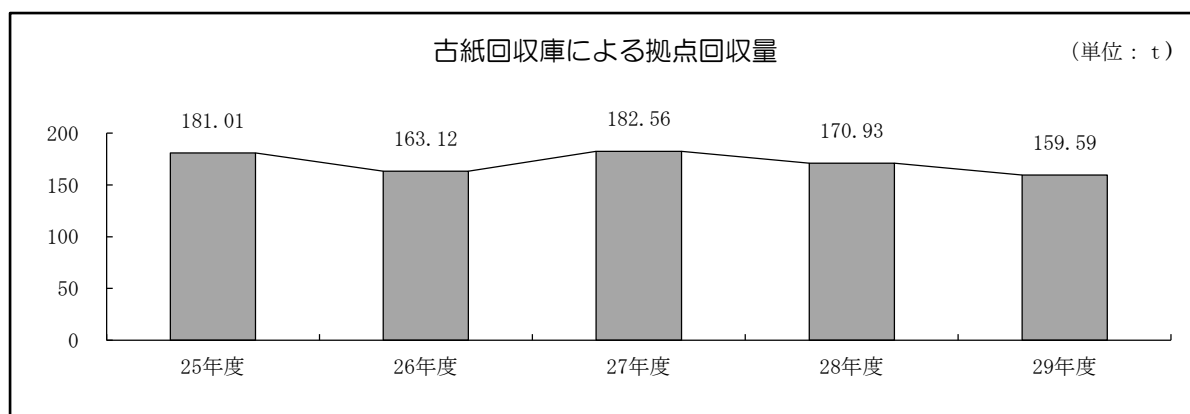
家庭系及び事業系古紙の回収拠点として、平成17年8月に環境事業所（3か所）及び清掃工場（3か所）の合計6か所に古紙回収庫を設置した。さらに、平成19年1月に市役所、若葉区役所及び緑区役所の3か所に増設した（合計9か所）。

また、平成20年3月（受入開始は4月）に寒川土地区画整理事務所、花見川区役所、稲毛公民館、みつわ台第2公園スポーツ施設、古市場公園スポーツ施設及び高洲市民プールの6か所に増設し、平成20年10月に土気市民センター、検見川稲毛土地区画整理事務所及び松ヶ丘公民館の3か所に増設し、さらに、平成21年10月に稲毛区役所及び美浜区役所の2か所に増設した。

平成28年3月に高洲市民プールの改築に伴い廃止し、平成29年3月に北谷津清掃工場の閉鎖に伴う泉市民センターへの移設により、合計19か所で古紙の自己搬入を受け入れている。

(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
新 聞	25.95	19.48	19.09	20.02	18.03
雑 誌・雑 が み	100.24	88.62	106.29	96.46	89.36
段 ボ ー ル	54.82	55.02	57.18	54.43	52.19
紙 パ ッ ク	0.00	0.00	0.00	0.02	0.01
合 計	181.01	163.12	182.56	170.93	159.59

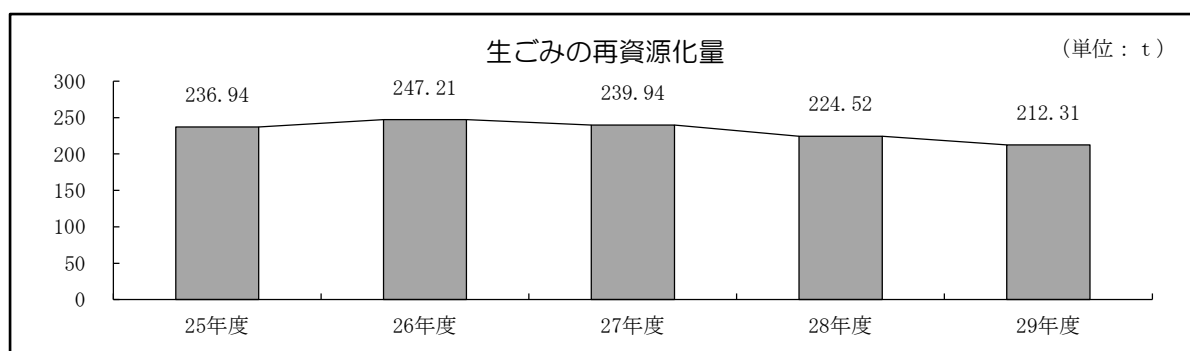


(5) 生ごみの再資源化

焼却ごみの減量・生ごみの資源化を推進するため、平成 19 年度から、家庭から出る生ごみを分別収集し、バイオガス化処理するモデル事業を 4 地区（約 2,760 世帯）で実施し、平成 24 年 4 月からは同地区を生ごみ分別収集特別地区と位置づけ、生ごみ分別収集特別地区事業を実施していたが、平成 29 年度末に事業を終了した。

(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
生 ご み	236.94	247.21	239.94	224.52	212.31

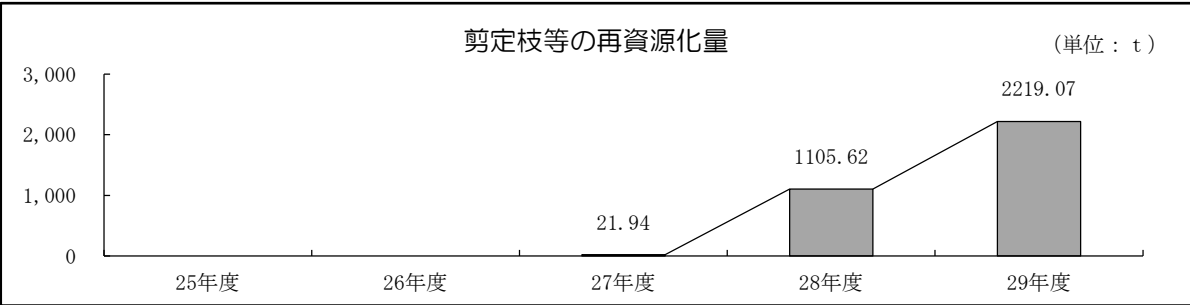


(6) 剪定枝等の再資源化

焼却ごみの減量・剪定枝等の資源化を推進するため、平成 27 年 5 月から平成 28 年 3 月まで 2 地区（約 1,600 世帯）、平成 28 年 5 月から平成 29 年 3 月まで中央区全域（約 100,000 世帯）を対象に、家庭から出る木の枝・刈り草・葉を資源収集し、燃料チップや敷料として活用する剪定枝等循環システムモデル事業を実施した。

なお、モデル事業の検証結果を踏まえ、平成 29 年度から全市域で剪定枝等再資源化事業を実施している。(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
剪 定 枝 等	—	—	21.94	1,105.62	2,219.07

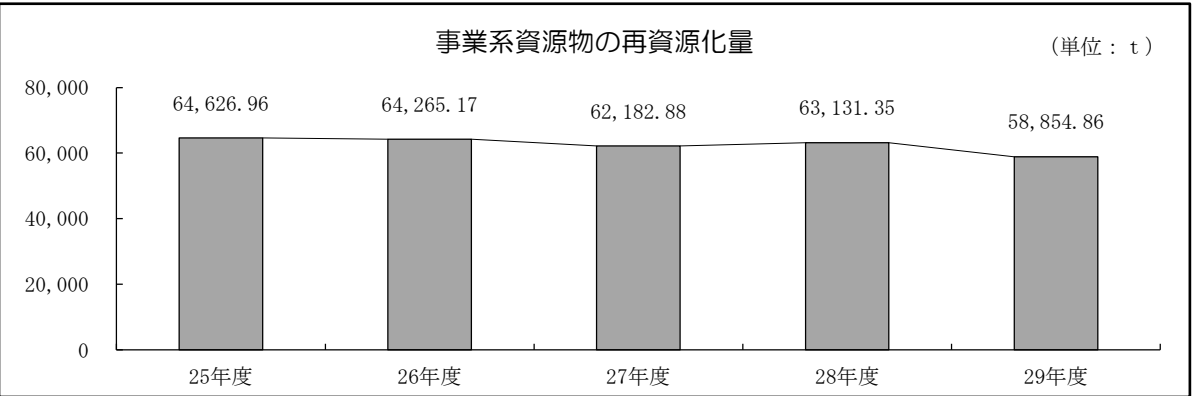


(7) 事業系資源物の再資源化

事業系資源物は、排出者の責任において再資源化されており、市では、毎月の許可業者の報告をもとにその再資源化量を把握している。

(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
古 紙	46,335.18	44,670.99	42,859.32	41,312.97	39,623.53
布 類	48.76	36.55	35.80	38.46	23.25
び ん	3,536.63	3,604.39	3,458.71	3,241.91	2,478.94
缶	2,191.76	2,257.40	2,298.82	2,165.12	2,026.25
金 属	773.44	797.37	770.77	876.37	788.30
食 品 残 さ	7,687.83	8,008.38	7,843.67	8,497.02	5,830.76
木 く ず	4,053.36	4,890.09	4,915.79	6,999.50	8,083.83
合 計	64,626.96	64,265.17	62,182.88	63,131.35	58,854.86



（８）使用済小型電子機器等の再資源化（ボックス回収）

使用済小型電子機器等に含まれる金や銀などの貴金属やレアメタルなどがリサイクルされずに埋め立てられていることへの対応として、使用済小型電子機器等を対象としてリサイクル（再資源化）を進めていくため、平成26年２月より、回収ボックスを市役所・区役所など12ヵ所の拠点に常設して回収を開始した。平成27年６月には各市民センターなど13ヵ所、平成28年４月には打瀬公民館１ヵ所に拠点を拡充し、公共施設に計26ヵ所の拠点を設置した。

なお、平成26年５月にケーズデンキとごみ減量のための「ちばルール」行動協定を締結し、市内４店舗での店頭回収が始まり、平成27年7月には新規開店した１店舗を加え、市内５店舗にて回収が行われている。

平成29年４月からは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が実施する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加した。それに伴い、市役所及び各環境事業所の市内４ヵ所で使用済みの携帯電話・スマートフォンの回収を開始し、７月からは、各区役所での回収も開始している。平成30年８月からは、ノートパソコン・タブレットの回収を開始した。

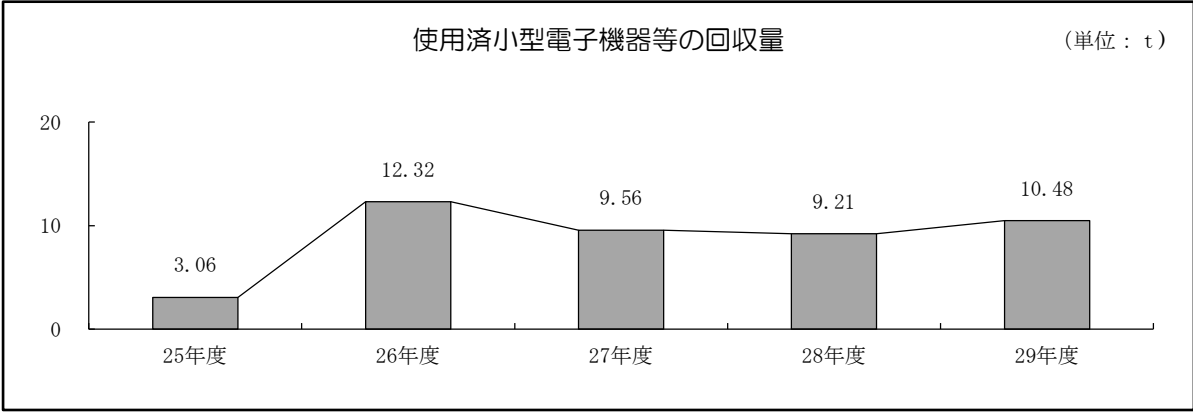
ア 回収品目

- ☐ デジタルカメラ
- ☐ カメラ
- ☐ ビデオカメラ
- ☐ ヘアドライヤー
- ☐ ヘアアイロン
- ☐ 電気バリカン
- ☐ 電気カミソリ及び洗浄機
- ☐ ヘッドホン・イヤホン
- ☐ 携帯音楽プレーヤー
- ☐ ICレコーダー
- ☐ 補聴器
- ☐ ゲーム機
- ☐ 電子体温計
- ☐ 電動歯ブラシ
- ☐ カーナビ
- ☐ 電子書籍端末
- ☐ 電卓
- ☐ 卓上時計
- ☐ HDDレコーダー
- ☐ 電子辞書
- ☐ 電子付属品
- ☐ 携帯電話・スマートフォン（市内10ヵ所のみ）
- ☐ ノートパソコン・タブレット（市内10ヵ所のみ）

イ 回収量

（単位：t）

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
項 目					
使用済小型電子機器等	3.06	12.32	9.56	9.21	10.48

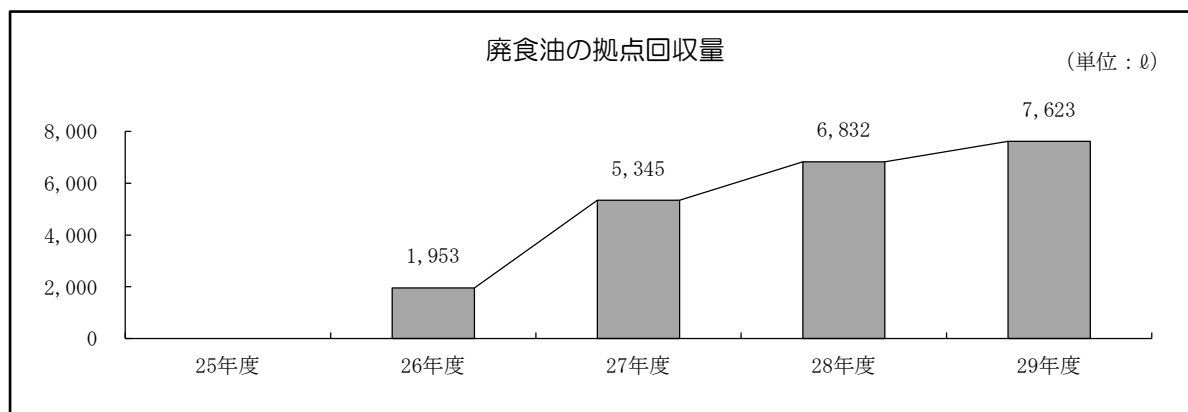


(9) 廃食油の再資源化

平成 26 年 8 月より、家庭から可燃ごみとして排出される廃食油（使用済みてんぷら油等）を市民団体や事業者と協力して回収を開始した。回収された廃食油は、市内事業者によってバイオディーゼル燃料へリサイクルされている。

(単位：ℓ)

項 目 \ 年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
廃 食 油	—	1,953	5,345	6,832	7,623

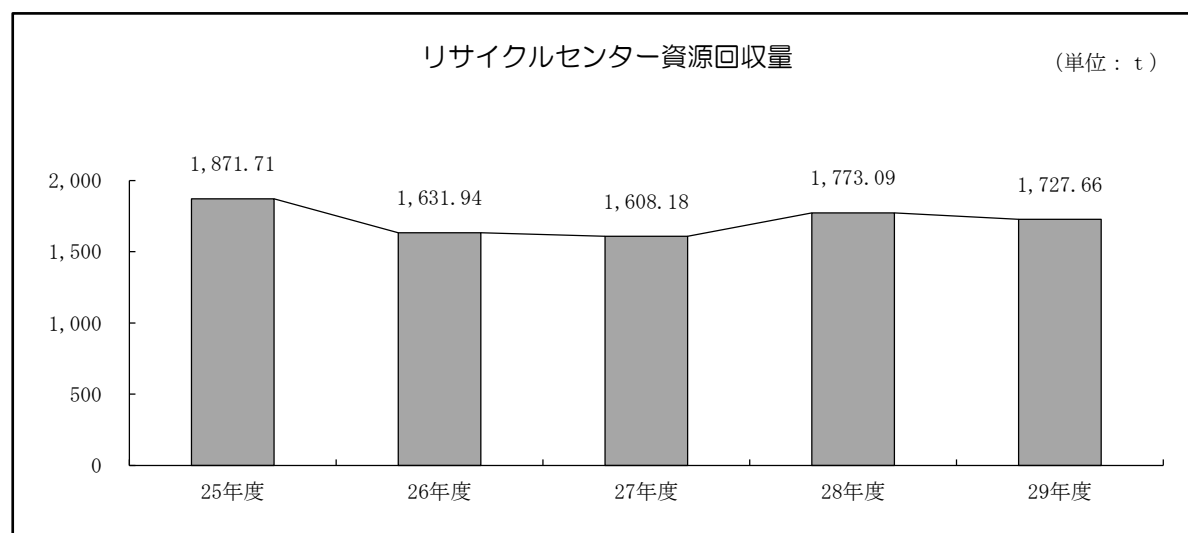


(10) リサイクルセンター資源回収

新浜リサイクルセンターに集められた不燃ごみ・粗大ごみから金属等を回収し、再資源化している。

(単位：t)

項 目 \ 年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
鉄 類	1,871.71	1,629.05	1,602.66	1,745.04	1,703.69
そ の 他	—	2.89	5.52	28.05	23.97
合 計	1,871.71	1,631.94	1,608.18	1,773.09	1,727.66



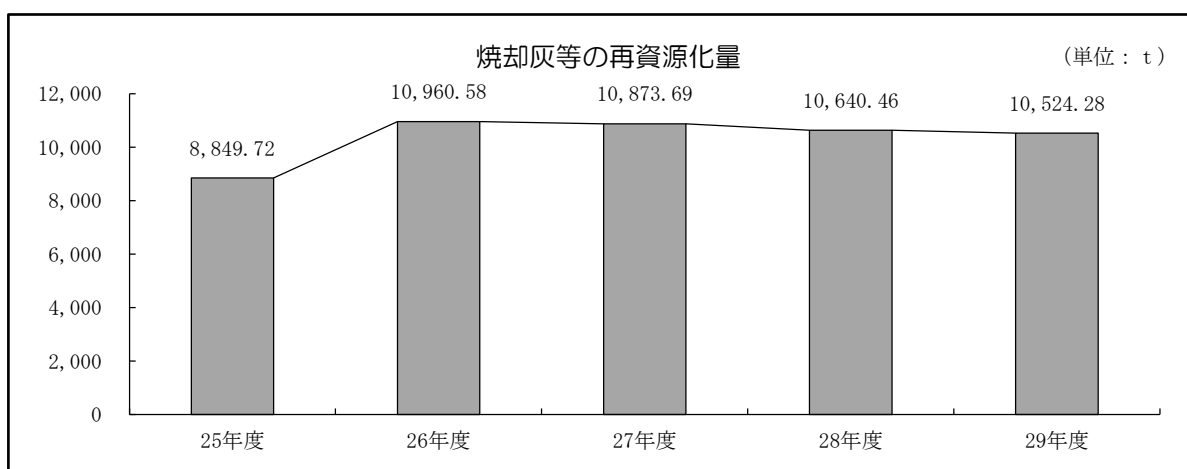
(11) 焼却灰等の再資源化

清掃工場から排出される焼却灰の溶融スラグ化などを行い、減容化・再資源化を図っている。

(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
溶 融 ス ラ グ	6,185.41	6,212.74	5,952.39	5,795.22	5,739.04
メ タ ル	669.87	682.12	719.83	651.91	602.72
エコセメント	—	—	—	—	—
民間業者へ委託	1,994.44	4,065.72	4,201.47	4,193.33	4,182.52
合 計	8,849.72	10,960.58	10,873.69	10,640.46	10,524.28

※「溶融スラグ」は、最終処分場覆土材利用量を含む

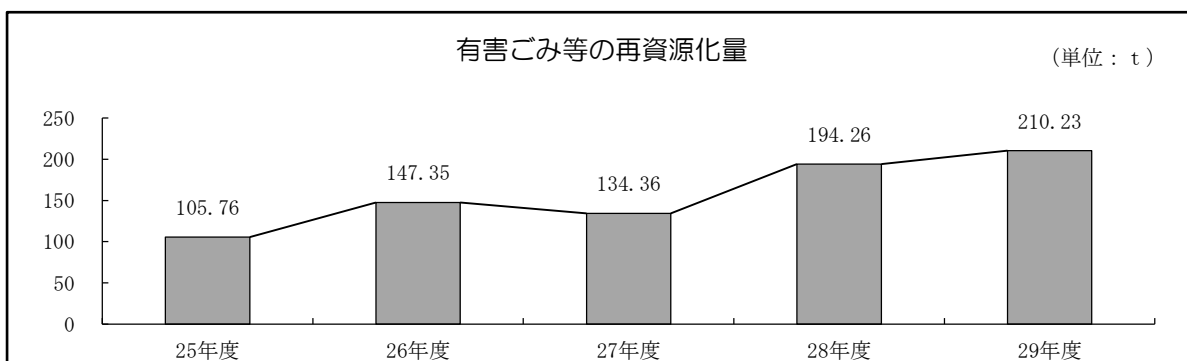


(12) 有害ごみ等の再資源化

新浜リサイクルセンターに集められた有害ごみ等を、民間業者へ委託して資源化している。

(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
乾 電 池	81.23	113.52	112.56	162.73	190.50
蛍 光 管	18.30	28.94	19.00	28.15	17.83
処 理 困 難 物	6.23	4.89	2.80	3.38	1.90
合 計	105.76	147.35	134.36	194.26	210.23



3 再生利用の推移

(単位：t)

項 目			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
人 口 *1			959,487人	962,554人	964,830人	966,154人	967,966人
①	びん・缶・ペットボトルの再資源化		13,321.48	12,956.43	12,998.79	12,733.68	12,518.49
②	古紙・布類の再資源化（ステーション収集）		18,586.99	17,873.89	17,564.64	16,813.97	16,259.05
③	生ごみの再資源化		236.94	247.21	239.94	224.52	212.31
④	剪定枝等の再資源化		—	—	21.94	1,105.62	2,219.07
⑤	事業系資源物の再資源化		64,626.96	64,265.17	62,182.88	63,131.35	58,854.86
A	①+②+③+④+⑤		96,772.37	95,342.70	93,008.19	94,009.14	90,063.78
⑥	古紙・布類の集団回収		16,356.25	15,027.96	14,094.38	12,803.53	11,711.24
⑦	古紙回収庫による拠点回収		181.01	163.12	182.56	170.93	159.59
⑧	使用済小型電子機器等の再資源化		3.06	12.32	9.56	9.21	10.48
⑨	廃食油の再資源化*2		—	1.76	4.81	6.15	6.86
⑩	資源物の持込み回収		—	1.77	6.83	0.22	—
B	⑥+⑦+⑧+⑨+⑩		16,540.32	15,206.93	14,298.14	12,990.04	11,888.17
C	A + B		113,312.69	110,549.63	107,306.33	106,999.18	101,951.95
⑪	リサイクルセンター資源回収		1,871.71	1,631.94	1,608.18	1,773.09	1,727.66
⑫	焼却灰等の再資源化		8,849.72	10,960.58	10,873.69	10,640.46	10,524.28
⑬	有害ごみ等の再資源化		105.76	147.35	134.36	192.53	210.23
D	⑪+⑫+⑬		10,827.19	12,739.87	12,616.23	12,606.08	12,462.17
E	再生利用量（C + D）		124,139.88	123,289.50	119,922.56	119,605.26	114,414.12
a	家 庭 系 収 集 量	粗 大	4,107.16	3,531.21	3,600.37	3,967.18	3,950.41
		不 燃	10,776.21	8,815.78	8,944.37	8,672.88	8,940.54
		可 燃	177,530.39	166,767.69	168,565.55	164,307.12	161,578.62
		有 害	99.53	142.46	131.56	190.88	208.33
		資 源 物	32,145.41	31,077.53	30,825.31	30,877.79	31,208.92
		計	224,658.70	210,334.67	212,067.16	208,015.85	205,886.82
b	事 業 系 収 集 量	不 燃	25.11	25.51	16.94	23.69	23.30
		可 燃	78,808.03	79,299.44	78,924.01	74,676.53	74,449.71
		資 源 物	64,626.96	64,265.17	62,182.88	63,131.35	58,854.86
		計	143,460.10	143,590.12	141,123.83	137,831.57	133,327.87
F	総収集量（a + b）		368,118.80	353,924.79	353,190.99	345,847.42	339,214.69
G	総排出量（B + F）		384,659.12	369,131.72	367,489.13	358,837.46	351,102.86
再生利用率（E / G）			32.3%	33.4%	32.6%	33.3%	32.6%
排出量 原単位 （g / 人・日） *3	総排出量（G）		1,098	1,051	1,041	1,018	994
	資源物を除く（G - C）		775	736	737	714	705
	資源物（C）		323	315	304	304	289

※1 人口は、3月末現在の「住民基本台帳」に記載された人口

※2 廃食油は、回収量（ℓ）× 0.001（m³/ℓ）× 0.9（t/m³）でtに換算（参考：産業廃棄物の体積から重量への換算係数）

※3 排出量原単位は、1人1日当たりごみ排出量（事業系を含む）で、排出量÷人口÷365日（閏年は366日）×1,000,000で算出

4 ごみ削減啓発事業

3用地2清掃工場運用体制での安定的なごみ処理体制が求められることから、さらなる焼却ごみ削減を推進するため、市民・事業者に対し、積極的な普及・啓発を行った。

(1) 町内自治会等への説明会「今すぐ実践！ごみ減量講習会」

千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の内容、ごみ処理の現状、具体的な分別・減量化の方法等について周知するため、説明会や出前講座を開催している。

(単位：回)

年度 項目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
開催回数	641	41	10	44	71

(2) 市民が集う各種イベントにおける普及・啓発キャンペーン

(平成29年度)

参加イベント	食育のつどい、地方卸売市場市民感謝デー、千葉湊大漁まつり、成人式、千葉市職員採用説明会、Chiba Winter Fes 2018、車椅子バスケットボール全国選抜大会
内 容	・生ごみ関連、資源物の分別、小型家電回収、生ごみ減量機器、廃食油資源回収等の啓発ちらしの配布 ・啓発うちわ、雑がみ保管袋、水切りネット、マイバック等啓発品の配布 ・食品ロスに関するゲームの実施

(3) 未就学児向け啓発「へらそうくんルーム」

大学生ごみ減量ボランティアグループ「ちばくりん」と連携し、市内の保育所（園）・幼稚園にて3R啓発活動を実施した。

(平成29年度)

実施期間	平成29年8月16日～平成30年2月6日
実施場所	12か所（6保育所（園）、6幼稚園）
参加人数	491人、ちばくりん4人
内 容	幼児用3R啓発紙芝居「へ～んしん！」の読み聞かせ、ごみ分別体験ゲーム、リサイクルについての〇×クイズを実施した。

(4) 小学生向け啓発「ごみ分別スクール」

市立小学校及び千葉大学附属小学校の4年生を対象に、ごみの分別方法や再資源化について体験学習する「ごみ分別スクール」を実施した。

(平成29年度)

実施期間	平成29年6月6日～11月9日
実施数	112校
参加児童数	8,384人
内 容	千葉市のごみの現状についての話、ごみ分別体験、ごみ収集車の実演、リサイクルについての〇×クイズなどを実施した。

(5) ごみ出しチェック隊「ヘラソーズ」

花見川区・稲毛区内の小学校を対象に、ごみの分別やリサイクルについてのチェックシートに1週間取り組み、取り組んだ児童に対し、記念品(クリアファイル)を送付した。

(平成29年度)

実施校数	20校(花見川区:11校 稲毛区:9校)
参加生徒数	1,115人

(6) ごみ処理施設見学ツアー

小学校4～6年生とその保護者を対象とした、リサイクルの仕組みや処理方法について学習し、分別排出意識の向上を図ることを目的としたごみ処理施設見学ツアーを実施した。

実施日	平成29年8月7日
見学先	王子マテリア株式会社 江戸川工場、千葉市 新浜リサイクルセンター
参加人数	15組30名

(7) 高校生向け啓発「エコレシピ料理講習会」

一般にごみ減量に関心が低いといわれている若年層に当たる高校生に対し、家庭科の授業等を通して、生ごみの発生量等が少ない「エコレシピ」による料理を学習することで、生ごみの減量等、環境に配慮した調理法への関心を持ってもらうため、市内高等学校において実施した。

(平成29年度)

	高校生向け
実施日程	平成29年9月20日、11月8日、11月11日
実施場所	県立生浜高等学校、県立千葉女子高等学校、昭和学院秀英高等学校
参加人数	100人
内 容	市内高等学校生徒を対象にエコレシピ料理講習会を実施。 【メニュー: ツナ入りナポリタン、カラフル野菜スープ】

(8) 大学生ごみ減量ボランティアグループ「ちばくりん」

全国初となる市内大学の横断的組織であるごみ減量ボランティアグループ「ちばくりん※」が市との協働による啓発活動を実施した。

※ちばくりん

設 立	平成 26 年 2 月 14 日
参加大学及びメンバー (平成 29 年度末現在)	敬愛大学など 約 16 人
名 前 の 由 来	「みんなの力で千葉市(ちば)をきれいに(クリーン)にしていこう！」という目標から
活 動 内 容	・大学祭におけるごみの分別の呼びかけ ・「エコメッセ 2017 in ちば」へブース出展 ・未就学児向け啓発「へらそうくんルーム」への協力 ・NPO 法と連携した、3R 市民リーダー活動
ロ ゴ マ ー ク	

(9) 生ごみ資源化アドバイザー

平成17年度より、生ごみの減量及び資源化に積極的に取り組み、かつ所定の要件を満たした方々を、生ごみ資源化アドバイザーとして登録し、町内自治会・市民活動団体及び事業者等が行う、生ごみの減量及び資源化推進を目的とした活動を対象にアドバイザーを派遣している。

項目 \ 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
登 録 人 数	74 人	98 人	111 人	107 人	95 人
派 遣 回 数	21 回	22 回	11 回	9 回	10 回

(10) 生ごみ肥料化講習会

平成24年度より、家庭で身近なものを使ってできる生ごみの減量・資源化方法等についての講習会を開催している。

項目 \ 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
実 施 回 数	15 回	20 回	2 回	1 回	2 回
参 加 人 数	212 人	286 人	58 人	29 人	47 人

※平成 27 年度までは、段ボールコンポスト製作講座として実施。平成 28 年度以降は、牛乳パックを使った生ごみ処理について実施。

(11) 生ごみ減量処理機等の普及促進

家庭から出る生ごみの減量を目的に、市民が生ごみ減量処理機・生ごみ肥料化容器を購入する場合、購入費の一部を補助し、生ごみの減量化・再資源化を推進している。

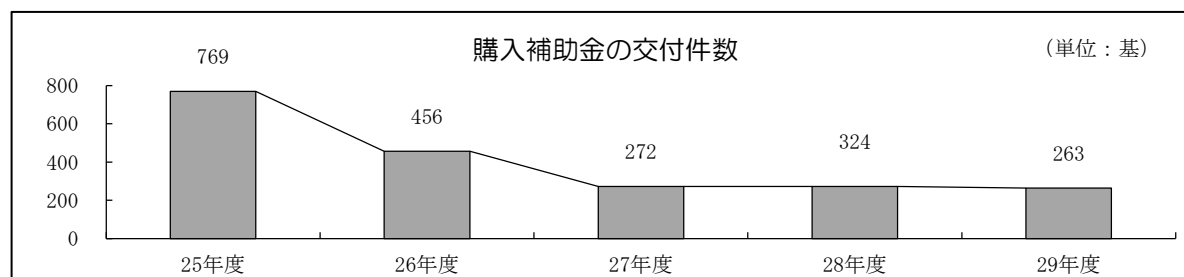
ア 補助内容

項 目	補助開始時期	補助率	補助限度額	備考
生ごみ減量処理機	平成 8 年 6 月	1 / 2	35,000円	同一住居当たり 5年で1基まで
生ごみ肥料化容器	平成 2 年10月	2 / 3	4,000円	同一住居当たり 5年で2基まで
段ボールコンポスト	平成27年 4 月	2 / 3	4,000円	同一住居当たり 1年で2基まで

イ 購入補助金の交付件数

(単位：基)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
生ごみ減量処理機	204	167	97	129	124
生ごみ肥料化容器	565	289	172	195	139
段ボールコンポスト	—	—	3	0	0
合 計	769	456	272	324	263

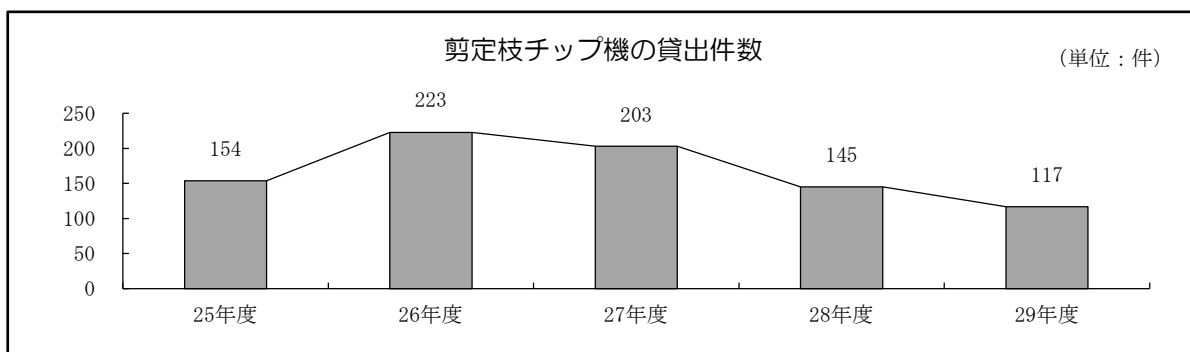


(12) 剪定枝チップ機の貸出

平成 17 年度より、家庭から発生する剪定枝等の資源化を推進するため、剪定枝チップ機の貸出事業を実施している。剪定枝等の処理物は、雑草の対策として庭に敷いたり堆肥等として利用されている。

(単位：件)

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
項 目					
貸 出 件 数	154	223	203	145	117



(13) 広報紙等による啓発

ア 家庭ごみの減量と出し方ガイドブック

家庭ごみ手数料徴収制度の仕組み、家庭ごみの分別・排出ルール等を周知するため、ガイドブックを配布している。

イ GO!GO!へらそうくん

市民に役立つごみ減量・リサイクル情報や市の施策などを提供するための広報紙「GO!GO!へらそうくん」を市政だよりと統合し発行、全戸ポスティングを行った。

(平成29年度)

主 な 内 容	No.9 木の枝・刈り草・葉の再資源化、ペットボトルはラベルをはがしてください、へらそうくんのスタンプ風画像配布中、雑紙の分別、3Rのいま・むかし、都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト
---------	---

ウ 事業所ごみ通信「リサイクリーンちば」

事業所ごみの適正処理及び減量・再資源化の促進を目的として、事業者への情報提供を行うため、事業所ごみについての情報紙「リサイクリーンちば」を作成し、配布した。

(平成29年度)

発 行	年1回、13,200 部／回
主 な 内 容	第37号 事業所ごみの分別について、食品廃棄物のリサイクルについて、水銀使用製品産業廃棄物について、廃食油の回収拠点について 他

エ 3R啓発教育図書の活用

ごみ減量・リサイクル意識を生活習慣として定着させることを目的に、幼児用及び小学校1年～3年生用の3R啓発教育図書を活用している。

オ 環境教育教材の作成・配布

小学校4～6年生を対象に「ちばキッズ エコエコ大作戦」を作成し、各学校に配布した。また、中学生に対しては、「環境学習ハンドブック」を配布した。（環境保全課にて作成・配布）

(14) 情報の提供等

ア インターネットホームページ

ごみ削減の取り組み、ごみの出し方や事業概要・計画のほか、毎月の焼却処理量のデータなど、ごみ総合情報をインターネットホームページ「焼却ごみ削減ホームページ」で提供した。

（ホームページアドレス <http://www.city.chiba.jp/kankyo/junkan/haikibutsu/recycleinfo.html>）

イ リサイクル情報コーナー

家庭から出るごみの減量と不用品の有効利用を図るため、各区役所ロビーに「リサイクル情報コーナー」を設置して、市民からの不用品情報を掲示している。

（平成29年度）

登録件数	成立件数	
	ゆずります	希望します
1,088件	897件	191件

(15) 事業所向け指導・啓発

ア 廃棄物講演会

事業用大規模建築物の所有者及び同建築物の廃棄物管理責任者、商工会議所の会員等を対象に、事業系ごみの適正処理及び減量・再資源化の促進のための講演会を開催している。

イ 優良事業者表彰

本市の環境行政に優れた貢献のあった事業者を表彰することにより、事業者の廃棄物の減量及び再資源化に関する意識の向上を図る。

ウ 広報紙等による啓発

事業系ごみの適正処理及び減量・再資源化の促進を目的として、事業所ごみについての情報紙「リサイクリンちば」を作成し、配布した。詳細については22ページのとおりである。また、平成28年度より、事業所ごみの分別・適正排出方法・食品リサイクル等を周知するため、「事業所ごみ分別排出ガイドブック」及び「食品リサイクルリーフレット」を作成し、事業者配布している。

エ 適正排出未確認事業所への調査・指導

平成 28 年度より、事業所ごみの適正排出が確認できていない事業所にごみ処理方法について訪問調査を実施し、不適正排出が認められた場合は指導を行っている。

(単位：件)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
訪 問 件 数	—	—	—	454	341
指 導 件 数	—	—	—	31	47

(16) ごみ減量のための「ちばルール」の周知・普及

ア 「ちばルール」行動協定店と連携した啓発

「ちば型」の資源循環型社会の構築を目指し、市民・事業者・千葉市がそれぞれの役割分担のもと、ごみ減量に取り組む行動指針となる、ごみ減量のための「ちばルール」及び「ちばルール」を推進するための 5 つの施策を平成 15 年度に策定した。

「ちばルール」の基本原則は、“ごみを減らす (Reduce) ”、“繰り返し使う (Reuse) ”、“再び資源として利用する (Recycle) ”の 3 つの R をもとに定められている。

また、平成 24 年 3 月に一般廃棄物 (ごみ) 処理基本計画を改定したことに伴い、さらなるごみの減量を推進するため、平成 25 年 2 月に“発生・排出抑制 (Reduce) ”を重点に置き、三者の行動指針 (役割) を明確に定めた内容に改定した。

イ ごみ減量のための「ちばルール」行動協定店における資源収集量

平成 29 年度末現在、市は小売事業者 48 事業者 158 店舗、新聞販売店 3 団体、商店街 5 団体と行動協定を締結している。

(単位：t)

年 度 項 目	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
店 頭 回 収	475.70	1,369.95	1,508.00	966.05	817.29
食 品 ト レ イ	58.20	64.38	76.85	72.81	69.11
紙 パ ッ ク	107.80	100.33	106.29	104.82	96.14
缶・びん・ ペットボトル	309.70	189.48	327.25	236.51	179.44
段ボール・ 雑 紙	—	1,015.76	997.61	551.91	472.60
新聞販売店自主 回 収	—	—	—	—	4,348.93

ウ ごみ減量のための「ちばルール」行動協定店取組み周知キャンペーン

ごみ減量のための「ちばルール」行動協定店による資源回収等などの取組みをより多くの市民に認識してもらい、「ちばルール」行動協定店による資源回収等の一層の活用を促し、ごみの減量・再資源化を図ることを目的に、協定店においてキャンペーンを実施した。

(平成29年度)

実施期間	平成30年3月
実施場所	(1) 千葉駅、稲毛駅及び都賀駅 (2) 希望するちばルール協定店(26店舗)
内 容	(1) 市職員が啓発品(保存容器)および資源回収店舗一覧のチラシを市民へ配布しながら、各協定店における取組み内容を紹介、周知した。 (2) 希望するちばルール協定店に啓発品(フリージングパック)および資源回収店舗一覧のチラシを提供し、各協定店における取組み内容についての紹介、周知を依頼した。

(17) 食品ロス削減の普及啓発

本来食べられるのに捨てられている食べもの(食品ロス)を削減するため、飲食イベント「ちーバル2017」及び市内ホテル(7事業者)と協働し、『残さず食べて、素敵な食事 ～「いただきます」と「ごちそうさま」～』をキャッチコピーとした食べきりキャンペーンを実施した。また、小・中学校と連携した普及啓発事業を実施した。

ア 食べきりキャンペーン

(ア) ちーバル2017

実施日時 実施場所	①10月1日 千葉みなとエリア ②10月4日 裏チバエリア ③10月11日 西口・北口エリア ④10月18日 富士見2丁目・本千葉町エリア ⑤10月25日 中央蓮池・栄町・富士見1丁目エリア ⑥10月29日 ちーバル本祭り ※実施時間は店舗によって異なる。
内 容	【ちーバル2017(参加店舗数164店舗)】 ・参加飲食店に次の取組みを依頼 ①小盛りやハーフサイズメニューの設定 ②来店者へ食べきりの呼びかけ・声かけ ③食べ切れない料理の持ち帰りの促進 ④その他(店舗独自の取組み) ※取組み内容は店舗によって異なる。

(イ) 市内ホテル

実施期間	平成 29 年 12 月 1 日～平成 30 年 1 月 31 日
実施場所	①オークラ千葉ホテル ②京成ホテルミラマーレ ③TKP ガーデンシティ千葉（カンデオホテルズ千葉内） ④東京ベイ幕張ホール（アパホテル&リゾート東京ベイ幕張内） ⑤ホテル ザ・マンハッタン ⑥ホテルスプリングス幕張 ⑦ホテルグリーンタワー幕張
内 容	①キャッチコピー入りの紙おしぼりを活用し、宴会等で食べきを啓発 ②市の作成した幹事・司会者向けちらしの配布

イ 小・中学校における啓発

実施期間	平成 29 年 10 月 1 日～31 日
実施場所	市立小学校及び市立中学校 計 166 か所
内 容	①校内放送での呼びかけ ②「給食だより」への記事掲載（小学校のみ） ③食品ロス削減普及啓発ポスターの掲示

(18) ごみ収集車でのバイオディーゼル燃料（BDF）の使用

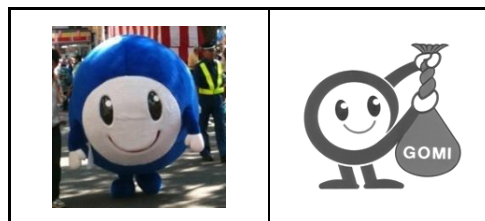
平成 28 年 5 月より、市内回収拠点で回収された廃食油から製造されたバイオディーゼル燃料（BDF）を、環境事業所のごみ収集車等の燃料として使用する事業を実施した。

（平成29年度）

実施場所	若葉・緑環境事業所
実施車両	塵芥車（2 t）、平ボディ車（2 t） 各 1 台
内 容	・実施車両へのバイオディーゼル燃料（BDF）の導入 ・実施車両側面へ横断幕等を掲示し、BDF 利用車であることを広報

(19) 「焼却ごみ削減キャラクター」へらそうくんによる啓発

「へらそうくん」は、平成 19 年度より取り組みを開始した「焼却ごみ 1 / 3 削減」のイメージキャラクターとして、一般公募により決定したキャラクターである。「焼却ごみ 1 / 3 削減」を達成した現在は「焼却ごみ削減キャラクター」として、ピンバッジなどの各種啓発物や広報紙への印刷などによる露出、また着ぐるみを製作し環境関連イベントなどに出演している。



へらそうくんのプロフィール

生年月日	平成 19 年 7 月 15 日
身長	その時の気分次第で自由自在
体重	千葉県全体の 1 年間の焼却ごみ量
趣味	ダイエット
特技	ごみの分別（特に雑紙の分別が得意）
好きな物	お菓子（食べた後の空き箱はしっかり雑紙として分別してるよ）

5 不適正排出防止対策

(1) 分別・排出ルール指導制度

ごみの分別・排出ルールを守らない者に対して指導を強化するため、ごみステーションに排出されたルール違反ごみを開封調査し、排出者指導を行った。

項目 \ 年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
対象ごみステーション（延べ数）	14, 865か所	79, 846か所	58, 604か所	20, 215か所	19, 346か所
開封調査したルール違反ごみ	5, 342件	4, 828件	2, 156件	1, 830件	853件
排出者を特定した件数	676件	296件	128件	74件	26件
個別訪問指導件数	99件	62件	94件	64件	22件
文書指導件数	445件	234件	34件	10件	4件

(2) 家庭ごみステーション排出指導

分別排出ルールが守られていないごみステーションを中心に、適正排出指導や分別・排出の啓発をした。

(3) ごみステーションの美化活動に関する表彰

＜平成29年度受賞者一覧＞（敬称略）

団体（12団体）	仁戸名月の木自治会、ハイラーク千葉自治会、港町自治会、本町一丁目自治会、検見川パークマンション管理組合、浪花町町内会、瑞穂自治会、柏井新田町内会、作草部第二町内会、若葉はづき会、土気中央町内会、千城台東町自治会
個人（8人）	藤田 盛夫（検見川ハイム管理組合法人自治会）、丸 昇（花輪町弥生が丘自治会）、有留 賢一（千葉寺青葉町自治会）、鎗田 修弘（椿森東部町内会）、大藤 誠孝（幕張町五丁目町内会）、城 加代子（作草部親和会）、田口 勉（宮野木町内会）、居初 光祐（千城台北一丁目自治会）

6 美化推進・路上喫煙等防止PR関係事業

(1) 美しい街づくりに係る活動支援

地域での自主的な清掃活動を推進するため、清掃ボランティア団体へ清掃用具等の支援を行った（522団体）。

(2) ごみゼロクリーンデー（ごみゼロ運動）

美しい街づくりの日・ごみ減量週間・環境月間行事の一つとして、道路上や植え込み等にあるごみ・空き缶など散乱ごみの収集活動を実施することにより、ごみの減量やリサイクルについての意識の向上を図った。

(平成29年度)			
項 目	地 域 開 催	区 役 所 開 催	計
開 催 期 間	平成29年 5 月28日～ 6 月30日	平成29年 6 月 4 日	
参 加 団 体 数	222団体	81団体	303団体
参 加 人 数	30,971人	643人	31,614人

(3) 路上喫煙等防止街頭周知活動

路上喫煙等の条例を制定している県内近隣市の連絡会を、平成 25 年 2 月に設置し、平成 25 年度から、同時期に周知・啓発活動を行う、「近隣市喫煙マナー向上・ポイ捨て防止合同キャンペーン」を実施している。

千葉市では、「千葉市路上喫煙等及び空き缶等の散乱の防止に関する条例」を周知するため、取締り 4 地区でハンドマイクによる周知活動を行うとともに、啓発品を配布した。

※参加都市（平成 29 年度）

千葉市・市川市・船橋市・流山市・八千代市・我孫子市・鎌ヶ谷市・浦安市・印西市・松戸市・柏市・佐倉市・習志野市・市原市・四街道市・野田市の 16 市

7 リサイクル等推進基金

粗大ごみ処理手数料及び家庭ごみ処理手数料の全額、寄付金、運用利子などを基金として積み立て、家庭ごみ手数料徴収制度運用のための費用や併せて実施する施策、生ごみ減量処理機等の購入補助、剪定枝等の再資源化など、廃棄物の減量、再利用及び適正処理を推進するための各種事業を実施した。

(平成29年度)

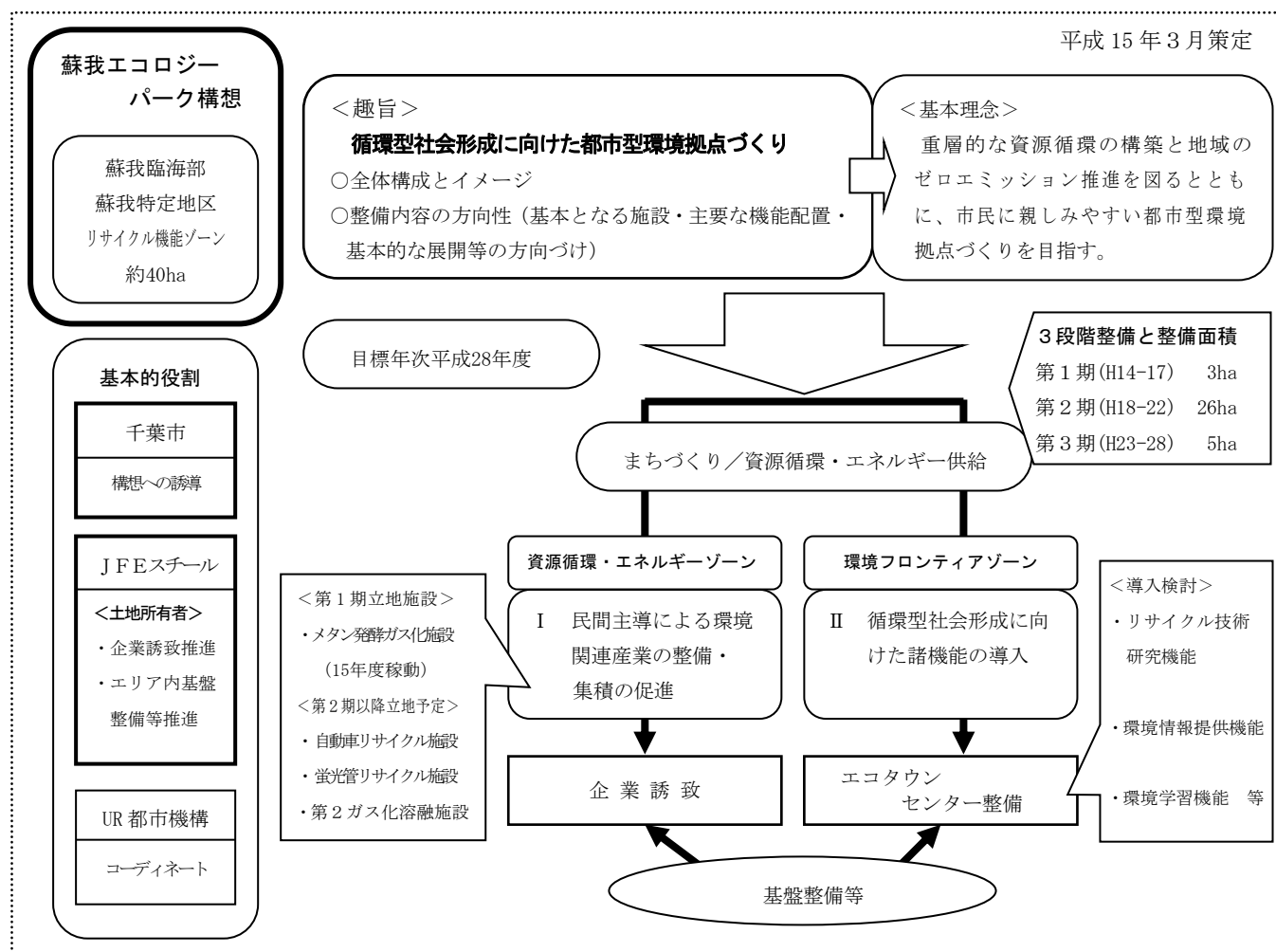
積立額	1,440,062千円	【内訳】 手数料 1,439,019千円 売払収入 653千円 運用利子 140千円 寄付金 250千円
取崩額	1,058,765千円	【内訳】 家庭ごみ手数料徴収関係 557,520千円 粗大ごみ手数料徴収関係 15,571千円 家庭ごみ分別推進 199,134千円 ごみ減量化推進 172,777千円 ごみ削減普及啓発 4,215千円 美化推進 1,166千円 その他 108,382千円

8 蘇我エコロジーパーク構想推進事業

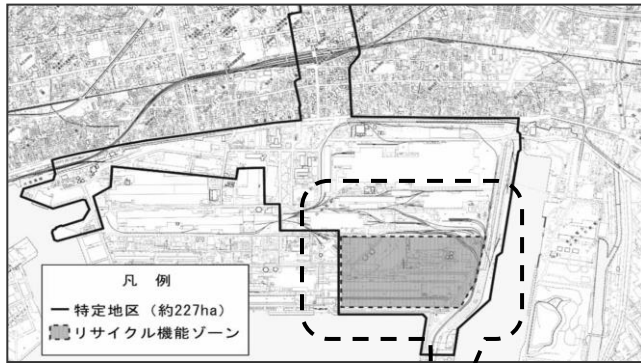
本構想は、循環型社会の形成を先導する本市の環境拠点として、蘇我特定地区（227ha）に配置した「リサイクル機能ゾーン」（約40ha）を「蘇我エコロジーパーク」と位置づけ、民間主導による各種リサイクル産業の整備・集積及び環境関連の各種諸機能等の導入を図る都市型環境拠点づくりの全体構成とイメージを示し、それを実現するための基本となる施設・主要な機能配置・基本的な展開等の方向づけを行うために策定したものである。

この構想の策定から既に10年以上が経過し、社会経済情勢や環境関連産業を取り巻く状況に変化が生じていること、また、本構想の最終計画年度となる平成28年に、構想対象地域内への火力発電所建設計画に係る環境影響評価の手続きが開始されたことなどから、環境影響評価の終了予定である平成31年度までを構想の見直し等を検討する期間とし、その後、必要に応じた措置を講じることとしている。

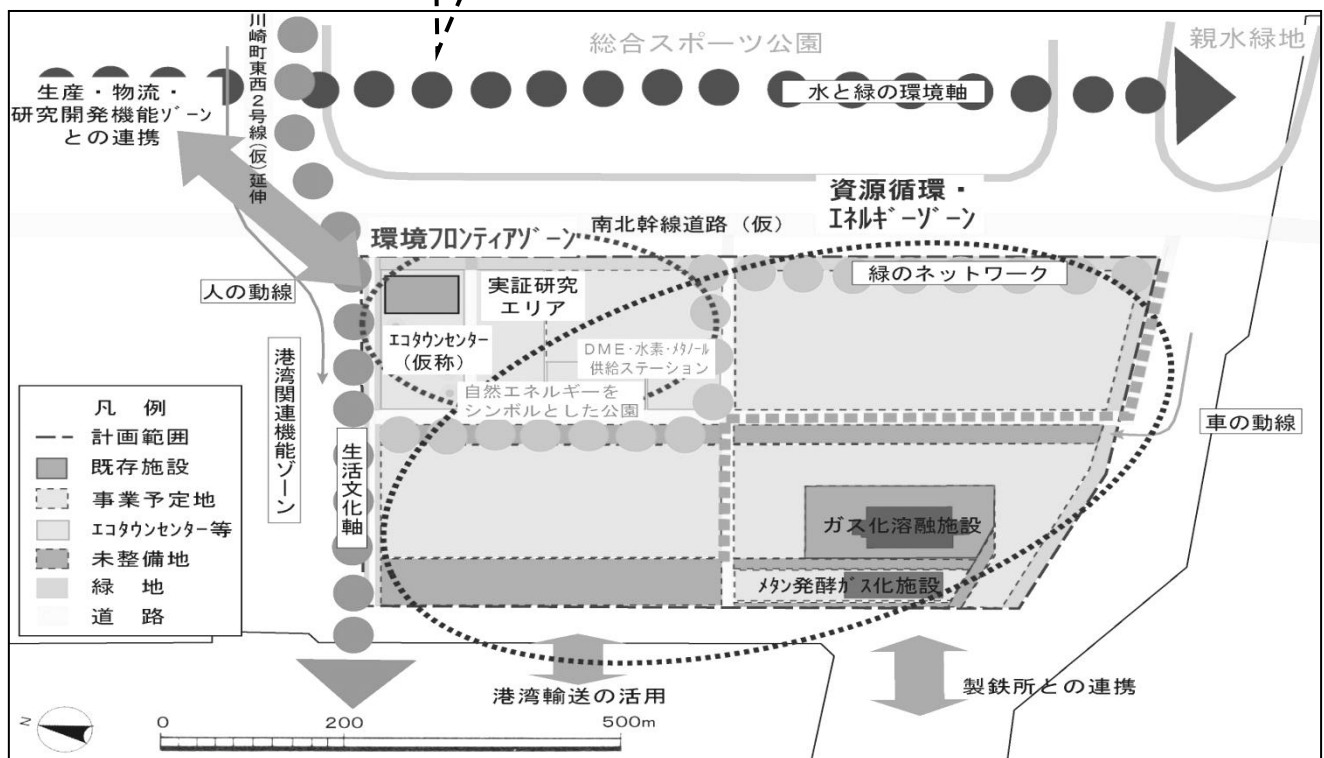
蘇我エコロジーパーク構想の概要



整備後の全体配置イメージ



「蘇我特定地区」区域とエコロジーパークの位置



9 千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の概要（平成 29 年度～43 年度）

事業者の皆さんの取り組み



- 古紙などの資源物は分別してリサイクルしましょう。
- 剪定枝等や食品残渣もリサイクルすることができます。可燃ごみとして出さずに、再資源化できる処理施設へ持ち込みましょう。
- レジ袋の配布や過剰包装をできるだけ控えて、ごみを減らしましょう。
- 資源物や産業廃棄物を清掃工場に持ち込まないようにしましょう。

<減量効果>

- ・古紙の分別を徹底してリサイクルすると……500トンのごみ減量！
- ・剪定枝等をリサイクルすると……2,000トンのごみ減量！
- ・食品残渣をリサイクルすると……2,800トンのごみ減量！

6 計画の推進・管理

計画・目標の共有化

市民・事業者・市の3者が本計画に対する理解を深め、共にごみ減量・再資源化に取り組んでいくため、本計画を広くPRして、分かりやすく説明します。

計画の進行管理・評価と見直し

計画を確実に推進するため、事業の進捗状況や目標の達成状況を毎年度把握し、進行管理を行います。また、必要に応じて事業の内容を見直します。

お問い合わせ先

千葉市 環境局 資源循環部 廃棄物対策課
〒260-8722 千葉市中央区千葉港1番1号
電話：043-245-5236
FAX：043-245-5624
E-mail：hajibutsutaisaku.ENR@city.chiba.lg.jp

千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画【概要版】

「もったいない」の心で、
1日18gのごみ減量

→「焼却ごみ1/3削減の達成」から第2Roundへ→

Reuse(リユース)

ものを繰り返し使う



Reduce(リデュース)

ごみの発生を減らす

～本計画のスローガンについて～

本計画の基本理念である「全員参加型 3R」を実践するため、日本だけでなく外国でも使われている「もったいない」を合言葉に、市民1人1日あたり18gの減量を目指します。
また、本市は人口50万人以上の自治体の中で再生利用率が全国第1位であることを踏まえ、本計画では、リサイクルだけでなく2R（リデュース・リユース）の推進にも力を入れていくこととし、「2R」と次のステージに進む意味の「第2Round」を掲げて表現しています。

1 計画策定の趣旨

計画策定の目的

市では、平成19年3月に策定した「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」において、「焼却ごみ1/3削減」をビジョンに掲げ、年間焼却ごみ量を2つの清掃工場で処理できる25万4,000トンまで削減することを、さらに、平成24年3月に策定した前計画では、「一歩先」の目標として焼却処理量を22万トンまで削減することを目指し、市民・事業者・市が一体となって、ごみの減量・再資源化に取り組んできました。

その結果、平成18年度に33万692トンであった焼却処理量を、平成26年度に25万531トンまで削減して、「焼却ごみ1/3削減」の目標を達成しました。

本計画では、今後3用地2清掃工場運用体制に移行することを踏まえ、既存施設の拡充や新規施設を盛り込み、2つの清掃工場で安定的かつ継続的にごみ処理を図るとともに、低炭素社会を考慮した循環型社会を構築するため、さらなるごみの減量・再資源化を目指します。



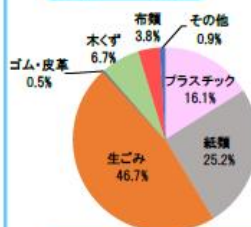
3用地2清掃工場運用体制とは

これまで3つの清掃工場でごみの焼却を行ってきましたが、平成28年度末で老朽化した北谷清掃工場の操業を終了し、平成29年4月から、2つの清掃工場を稼働させて残りの用地を新清掃工場の建設予定地とする「3用地2清掃工場運用体制」へ移行します。



2 ごみ処理の現状と課題

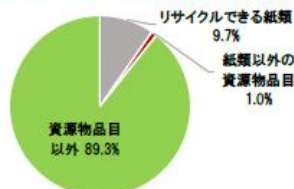
可燃ごみの内訳



平成27年度に市民の皆さんが排出した可燃ごみの内訳をみると、プラスチックが16.1%、紙類が25.2%、生ごみが46.7%で、全体の約88%を占めています。

燃も割合の多い生ごみを中心に、リデュース・リユースを推進するとともに、新たに資源化できる品目を増やして、ごみ量を減らしていく必要があります。

可燃ごみに混入している資源物品目



平成27年度に市民の皆さんが排出した可燃ごみの中に、リサイクルできる紙類が9.7%、ペットボトルや布類など紙類以外の資源物品目が1.0%含まれています。

分別をさらに徹底して、資源物品目の割合を減らしていく必要があります。

最終処分場の埋立状況

埋立済み 56.6% 埋立残 43.4%

(平成27年度末時点)



可燃ごみを焼却した後に発生する灰などは、最終処分場に埋立処分しています。
平成12年9月から供用を開始した最終処分場は、既に総容量のうち56.6%が埋立済みで、現時点では平成43年度に埋立を完了する見込みであることから、ごみ量を減らすとともに、焼却灰のリサイクルを推進して、最終処分場の延命化を図る必要があります。

3 基本理念・基本方針

- 基本理念** 全員参加型3Rによる 未来へつなぐ 低炭素・循環型社会の構築
- 市民・事業者・市の3者が3Rに取り組み、低炭素社会を考慮した循環型社会の構築を目指して良好な環境と資源を未来へ引き継ぐ「持続可能な社会」を実現していくことを、最上位の目標として位置づけます。
- 基本理念の達成に向けて計画の内容を3つの基本方針に分け、それぞれの方針に従い事業を展開していきます。
- 基本方針1** 1人ひとりがごみを出さないライフスタイル・ビジネススタイルの確立による、2R（リデュース・リユース）を目指します。
- 基本方針2** 再生利用率を高めるための効果的な資源化施策と、市民・地域・事業者との協働や地域活動への支援により、さらなる焼却ごみ量の削減を目指します。
- 基本方針3** 低炭素・資源循環へ貢献する、経済・効率性と安定・継続性に優れた、強固なごみ処理システムの構築を目指します。

4 計画フレームと数値目標

平成29年度から平成43年度までの15年間を計画期間とし、5年目の平成33年度と10年目の平成38年度を中間目標年度、平成43年度を目標年度として、計画目標値を設定します。



5 目標達成に向けた施策展開

- 基本方針1**
- 1 ごみ減量のための「ちばルール」の普及・拡大
 - 2 3R教育・学習の推進及びごみ処理に関する情報の共有化
 - 3 発生抑制(リデュース)・再使用(リユース)の促進
 - 4 料金の見直しによるごみの発生抑制
 - 5 生ごみの発生抑制の推進
 - 6 国及び他自治体との連携
 - 7 きれいなまちづくりの推進
 - 8 不法投棄の防止
 - 9 C-EMSによる市庁舎等における率先した3Rの推進
- 基本方針2**
- 10 市民・事業者との協働による資源化の推進・支援
 - 11 ごみ排出ルールの遵守・指導徹底
 - 12 事業所ごみの排出管理・指導の徹底
 - 13 多様な排出機会の提供と動機づけによる古紙等の資源化の推進
 - 14 剪定枝等の資源化の推進
 - 15 生ごみの資源化の推進
 - 16 清掃工場における事業系ごみの搬入物検査の実施
 - 17 さらなる資源化品目の検討・推進施策
- 基本方針3**
- 18 収集運搬体制の合理化
 - 19 ごみ出し支援サービスの実施
 - 20 民間の活用を取り入れた資源化システムの構築
 - 21 焼却残渣の再生利用の推進
 - 22 焼却処理施設の長期的な運用計画の推進
 - 23 最終処分場の適正管理
 - 24 安定的・効率的な処理体制を目指した清掃工場の計画・整備
 - 25 安定的・効率的な処理体制を目指したリサイクル施設の計画・整備
 - 26 安定的・効率的な処理体制を目指した最終処分場の計画・整備
 - 27 適正処理困難物等の処理推進

New!

マイバッグ等の普及や不用品を回収する「リユースバンク」を推進します。

生ごみ削減に関する講習会や、生ごみ減量処理機等の普及啓発を実施します。

手つかず食品を回収して福祉団体などへ寄付する「フードドライブ」や食品店と連携した食べ残しキャンペーンを通して、食品ロス削減を推進します。

New!

家庭から出る木の枝・草・葉の資源回収を実施します。

リサイクルに適した単一素材プラスチックの資源化事業を実施します。

New!

リサイクルに適した単一素材プラスチックの資源化事業を実施します。

市民の皆さんの取り組み

生ごみを減らそう!

水切りを徹底しよう! 生ごみの約70%は水分です。できるだけ絞り干さず、濡れながら生ごみを出さず、生ごみ減量処理機や肥料化容器を使えば、生ごみの量を減らし、堆肥を作ることができます。

食品ロスを減らそう! 食べ物を買いすぎないようにして、残さず食べよう。野菜の皮なども工夫して調理し、食材を使い切ろう。

生ごみ減量処理機や肥料化容器を使えば、生ごみの量を減らし、堆肥を作ることができます。

紙ごみを減らそう!

きちんと分別しよう! 新聞・雑誌・紙ボール・紙パックの5つに分別してひとりで得てから、ごみステーションに出しましょう。メモ用紙や紙菓子の空き箱も雑巾として出しましょう。

古紙回収に協力しよう! 町内自治会や地域の地域団体がやっている古紙回収に、積極的に参加しましょう。

リサイクルの紙製品に協力しよう! お店のシートやラップの芯などのリサイクルでできた紙類は、可燃ごみに出さず、古紙回収に協力しましょう。

古紙回収に協力しよう! 市(区)役所や清掃工場などに設置された古紙回収機に古紙を持ち込むことができます。

その他の取り組み

マイバッグ・マイボトル・マイ箸を使いましょう。不用品はフリーマーケットやリサイクルショップに出さず必要人に譲りましょう。

木の子・丹・草・葉の資源物の日にしましょう。使用済小型家電やてんぷら油の集点回収を利用しましょう。

白色トレイなどの資源物は店頭回収を実施している「ちばルール」協定店に持ち込みましょう。

「ちばルール」協定店 スターバックス

<目標>

1人1日18gのごみ減量!

18gってどのくらい?

大きな約1杯の水、お菓子の皮1コ、レジ袋2枚

なぜ減量目標が18gなの?

18gの減量!!

ごみ量の実績と計画目標値

年度	ごみ量 (t)
H27	181,242
H33	168,780
H38	166,000
H43	164,000

市民1人1日あたり排出量にすると...

年度	排出量 (g)
H27	513g
H33	495g
H38	490g
H43	485g

